

■社会科の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。(※社会科の目標構成と同様に、各分野の目標がある。)

■社会科の特質に応じた見方・考え方(※別紙2『社会的な見方・考え方』を働かせたイメージの例)参照)

社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握してその解決に向けて構想したりする際の視点や方法(考え方)。この社会的な見方・考え方は、「社会的事象の地理的な見方・考え方」、「社会的事象の歴史的な見方・考え方」、「現代社会の見方・考え方」の総称である。

■高知県が目指す授業づくりのコンセプト

○社会科における「学びを変える」授業づくりとは

課題を追究したり解決したりする活動を一層充実させることです。そのためには、単元を見通して学習課題を設定し、諸資料や調査活動などを通して調べたり、思考・判断・表現したりしながら、社会的事象の特色や意味などを理解したり社会への関心を高めたりすることが大切です。

○社会科における「学びをつなげる」授業づくりとは

社会科で育成を目指す資質・能力の系統性を踏まえた指導の充実を図ることです。そのためには、各分野の見方・考え方や育成を目指す資質・能力、学習内容の社会科全体における位置付け、高等学校の学習とのつながりを捉えたうえで指導することが大切です。

○社会科における「学びを高める」授業づくりとは

生徒が社会的事象等から学習課題を見だし、課題解決の見通しをもって他者と協働的に追究し、追究結果をまとめ、自分の学びを振り返ったり新たな問いを見いだしたり、社会との関わりを意識できるようにすることです。そのためには、各分野の特質に応じた見方・考え方を働かせることができるよう問いを工夫し、その課題の解決に向けて多面的・多角的に考察、構想や説明、議論することを通して、社会の中で汎用的に使うことができる概念等が身に付くように学習の設計を図ることが大切です。

■社会科の特質に応じて、効果的な学習展開ができるように配慮すべき内容

○学校段階間のつながりを考慮した指導の充実(※別紙1「小・中学校社会科における内容の枠組みと対象」参照)

指導計画を作成する際には、単元など内容のまとまりを見通し、各分野の学習内容が、社会科全体においてどのような位置付けにあるか、小学校社会科や高等学校の学習とどのようにつながるのかを意識して指導することが大切です。

○言語活動の一層の充実

社会科ならではの言語活動に関わる学習活動が充実するよう指導することが大切です。社会的な見方・考え方を働かせることをより一層重視し、社会的事象の意味や意義、事象の特色や事象間の関連、社会に見られる課題などについて、資料等を有効に活用して論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりする活動を充実させることにより、考察したことや選択・判断したことを表現する力を育成していきます。

○社会的事象等について調べまとめる技能の習得等に関する指導

情報の収集、選択、処理に関する技能を高めるとともに、作業的で具体的な体験を伴う学習の充実を図ることが大切です。その際、地図や年表を読んだり作成したり、現代社会の諸課題を捉え、多面的・多角的に考察、構想するにあたっては、関連する新聞、読み物、統計その他の資料に親しみ適切に活用したり、観察や調査などの過程と結果を整理し報告書にまとめ、発表したりするなどの活動を指導計画に効果的に位置付けるようにします。

○各分野、他教科等との関連

社会に見られる課題を把握し、その解決に向けて構想する力の育成に向けて、各分野、他教科等との関連を図る効果的な指導をすることが大切です。その際、現代的な諸課題を踏まえること、社会科の学びを軸として各分野の内容に応じて他教科等との関連を整理し単元の設定を工夫することなどに留意する必要があります。

小・中学校社会科における内容の枠組みと対象

枠組み	地理的環境と人々の生活			現代社会の仕組みや働きと人々の生活			歴史と人々の生活			◆「小・中学校における内容の枠組みと対象」について		
	地域	日本	世界	経済・産業	政治	国際関係	地域	日本	世界			
小学校・義務教育学校前期課程	第3学年	(1)身近な地域や〇〇市(町村)の様子 イ(7)「仕事の種類や産地の分布」				イ(7)「市役所などの公共施設の場所と働き」 (3)地域の安全を守る働き	内容の取扱い(4)(ウ)「国際化」 イ(イ)「外国との関わり」	(4)〇〇市(町村)の様子の移り変わり			小・中学校の社会科の内容を、「地理的環境と人々の生活」、「歴史と人々の生活」、「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」という三つの枠組みに位置付けて示しています。 また、「地理的環境と人々の生活」及び「歴史と人々の生活」は、空間的な広がり念頭に、地域、日本、世界で区分をしています。また、「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」は、社会的現象について経済・産業、政治及び国際関係と、対象を区分をしています。 左の表中の □ (四角囲み) で示しているものは、「内容のまとめり」を、● は、単元をそれぞれ示しています。学習の内容(単元)は、一つ一つが必ずしも三つの区分のいずれかにおさまるものではないため、----- で関連を示しています。	
	第4学年	(1)高知県の様子 (5)高知県内の特色ある地域の様子	ア(7)「47都道府県の位置と名称」		(2)人々の健康や生活環境を支える事業 内容の取扱い(3)イ「開発、産業などの事例(選択)」	(3)自然災害から人々を守る活動		内容の取扱い(1)イ「公衆衛生の向上」 イ(7)「過去に発生した地域の自然災害」 (4)高知県内の伝統や文化、先人の働き 内容の取扱い(4)ア「地場産業、伝統的な文化(選択)」				
	第5学年	(1)我が国の国土の様子と国民生活 イ(7)「生産物の種類や分布」 イ(7)「工業の盛んな地域の分布」 (5)我が国の国土の自然環境と国民生活との関連		イ(7)「世界の大陸と主な海洋、世界の主な国々」	ア(イ)「自然環境に適応して生活していること」 (2)我が国の農業や水産業における食料生産 (3)我が国の工業生産 (4)我が国の情報と産業との関わり (5)我が国の国土の自然環境と国民生活との関連		イ(7)「輸入など外国との関わり」 イ(ウ)「貿易や運輸」		イ(7)「生産量の変化」 イ(イ)「技術の向上」 イ(7)「工業製品の改良」 イ(イ)「情報を生かして発展する産業」			
	第6学年			イ(7)「外国の人々の生活の様子」		(1)我が国の政治の働き イ(イ)「我が国の国際協力」	(3)グローバル化する世界と日本の役割		(2)我が国の歴史上の主な事象			
	中学校・義務教育学校後期課程	地理的分野	C(1)地域調査の手法	A(1)②日本の地域構成 C(2)日本の地域的特色と地域区分 C(3)日本の諸地域	A(1)①世界の地域構成 B(1)世界各地の人々の生活と環境 B(2)世界の諸地域	③資源・エネルギーと産業 ③産業を中核とした考察の仕方	州という地域の広がりや地域内の結び付き ④交通・通信		地域の伝統や歴史的な背景を踏まえた視点			
			C(4)地域の在り方						地域の変容			
歴史的分野						(1)「ギリシャ・ローマの文明」 (1)「市民革命」、「立憲国家の成立と議会政治」、「国民の政治的自覚の高まり」 (2)「我が国の民主化と再建の過程」		A 歴史との対話 B 近世までの日本とアジア (1)古代までの日本 (2)中世の日本 (3)近世の日本 C 近現代の日本と世界 (1)近代の日本と世界 (2)現代の日本と世界	(1)(7)世界の古代文明や宗教の起こり (2)(7)武家政治の成立とユーラシアの交流 (3)(7)世界の動きと統一事業 (1)(7)欧米諸国における近代社会の成立とアジア諸国の動き (2)(7)日本の民主化と冷戦下の国際社会 など			
公民的分野	(1)「少子高齢化」	(1)「情報化、グローバル化」	A(1) 私たちが生きる現代社会と文化の特色 A(2) 現代社会を捉える枠組み B 私たちと経済 (1)市場の働きと経済 (2)国民の生活と政府の役割 C 私たちと政治 (1)人間の尊重と日本国憲法の基本的原則 (2)民主政治と政治参加 D 私たちと国際社会の諸課題 (1)世界平和と人類の福祉の増大 D(2) よりよい社会を目指して			(1)「文化の継承と創造の意義」						

※参考「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編」(平成29年7月)

「社会的な見方・考え方」を働かせたイメージの例

	社会における思考力, 判断力	視点を生かした、考察や構想に向かう「問い」の例
<p>考えられる視点例</p> <p>地理的分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ○位置や分布に関わる視点 絶対的, 相対的 規則性・傾向性, 地域差 など ○場所に関わる視点 自然的, 社会的 など ○人間と自然の相互依存関係に関わる視点 環境依存性, 伝統的, 改変, 保全 など ○空間的相互依存作用に関わる視点 関係性, 相互性 など ○地域に関わる視点 一般的共通性, 地方的特殊性 など 	<p>◎社会的事象の地理的な見方・考え方</p> <p>社会的事象を, 位置や空間的な広がりに着目して捉え, 地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で, 人間の営みと関連付けること。</p> <p>考察 地域の特徴や地域相互の関連を多面的・多角的に考察する力</p> <p>構想 地域に見られる課題の解決に向けて, 複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それは, どこに位置するだろう ・それは, どのように分布しているだろう ・そこは, どのような場所だろう ・そこでの生活は, まわりの自然環境からどのような影響を受けているだろう ・そこでの生活は, まわりの自然環境にどのような影響を与えているだろう ・そこは, それ以外の場所とどのような関係を持っているだろう ・その地域は, どのような特徴があるだろう <p>・それは, (どこにある, どのように広げる, どのような場所とする, どのような自然の恩恵を求める, どのように自然に働き掛ける, 他の場所とどのような関係を持つ, どのような地域となる) べきなのだろう</p>
<p>歴史的分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ○時系列に関わる視点 時期, 年代 など ○諸事象の推移に関わる視点 展開, 変化, 継続 など ○諸事象の比較に関わる視点 類似, 差異, 特色 など ○事象相互のつながりに関わる視点 背景, 原因, 結果, 影響 など 	<p>◎社会的事象の歴史的な見方・考え方</p> <p>社会的事象を, 時期や推移などに着目して捉え, 類似や差異などを明確にしたり, 事象同士を因果関係などで関連付けたりすること。</p> <p>考察 時代の転換の様子や各時代の特徴を多面的・多角的に考察する力</p> <p>構想 歴史に見られる諸課題について, 複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いつ(どこで, 誰によって)おこったか ・前の時代とどのように変わったか ・どのような時代だったか ・なぜおこった(何のために行われた)か ・どのような影響を及ぼしたか <p>・なぜそのような判断をしたと考えられるか</p> <p>・歴史を振り返り, よりよい未来の創造のために, どのようなことが必要とされるのか</p>
<p>公民的分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ○現代社会を捉える視点 対立と合意, 効率と公正, 個人の尊重, 自由, 平等, 選択, 配分, 法的安定性, 多様性 など ○社会に見られる課題の解決を構想する視点 対立と合意, 効率と公正, 民主主義, 自由・権利と責任・義務, 財源の確保と配分, 利便性と安全性, 国際協調, 持続可能性 など 	<p>◎現代社会の見方・考え方</p> <p>社会的事象を, 政治, 法, 経済などに関わる多様な視点(概念や理論など)に着目して捉え, よりよい社会の構築に向けて, 課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること。</p> <p>考察 社会的事象の意味や意義, 特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力</p> <p>構想 複数の立場や意見を踏まえて構想する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ市場経済という仕組みがあるのか, どのような機能があるのか ・民主的な社会生活を営むために, なぜ法に基づく政治が大切なのか <p>・よりよい決定の仕方とはどのようなものか</p> <p>・社会保障とその財源の確保の問題をどのように解決していったらよいか</p> <p>・世界平和と人類の福祉の増大のためにどのようなことができるか</p>

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申） 別添資料3-5 より」

三つの柱の資質・能力

資質・能力を身に付けるための課題解決的な学習活動例

学びに向かう力、人間性等

ヨーロッパ州について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度。
持続可能な社会づくりの観点から地球規模の諸課題や地域課題を解決しようとする態度。

知識及び技能

(ア) 世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解すること。
(イ) ヨーロッパ州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し理解すること。

思考力、判断力、表現力等

(ア) ヨーロッパ州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること。

《社会科における内容の枠組みと対象》※別紙1参照

Table with 2 columns: 対象 (World), 内容 (B(2) World regions). Includes sub-headers for geographical environment and modern society.

《単元構成》B(2)世界の諸地域

Unit structure diagram for B(2) World Regions. Lists 7 sub-units (Asia, Europe, Africa, North America, South America, Oceania) and 5 learning stages (National connections, Learning issues, Industry distribution, EU/JP environment, Learning solutions).

《個々の生徒の状況に応じた配慮》

資料から情報を見つけ出しやすさが困難な場合には、情報を精選し、視点を明確にする。
学習問題に気づくことが難しい場合には、写真などの視覚資料を多く提示したり、発問を工夫したりする。

《他教科等との関連》

【理科】科学技術と人間 自然と人間 【音楽】諸外国の様々な音楽
【美術】諸外国の文化遺産のよさや美しさ
【技術】社会の発展と生物育成の技術 社会の発展とエネルギー変換の技術 社会の発展と情報の技術
【家庭】消費生活・環境についての課題と実践
【外国語】世界の人々の日常生活、風俗習慣 【道徳】国際理解

【課題把握】動機付け / 方向付け

【課題追究】情報収集 / 考察・構想

【課題解決】【新たな課題】まとめ / 振り返り

ヨーロッパ州における地球的課題を解決していくための政策は、他の地域にどのような影響を与えているだろう。

・ヨーロッパ州の自然環境や国々の位置関係に着目し、ヨーロッパ州で見られる地球的課題について話し合い、問いを見出す力。

1. ヨーロッパ州の自然環境や国々の位置関係や文化的背景に関する資料を関連付けて、ヨーロッパ州の国々のつながりを捉える。

【主な問い】
ヨーロッパ州の国々は、経済的な面や政治的な面でどのようにつながっているのだろうか。

・自然環境に関する資料（地図、写真等）や言語や宗教の分布資料から人々の生活を捉える。
・複数の地図からの情報を関連付けながら、ヨーロッパ州内の国々の政治経済面のつながりを踏まえて、EU（ヨーロッパ連合）について捉える。

2. ヨーロッパ州で見られる地球的課題をSDGsから選択した上で、「単元を貫く課題」を設定し、学習の見通しをもつ。

・ヨーロッパ州で見られる地球的課題をSDGsから「7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに」「13 気候変動に具体的な対策を」を選択し、環境問題について調べる。
・EUに焦点を当て、EUの環境やエネルギーへの対策について追究するような「単元を貫く課題」を設定し、その解決の見通しをもつ。

・産業の分布と環境問題に着目し、環境問題が起きる要因を捉える力。
・EUでの環境・エネルギー対策を捉え、日本の対策と比較することで差異や共通性を捉える力。

3. EUの農業や工業の分布から環境問題と産業の関連性について調べ、環境問題の要因を捉える。

【主な問い】
農業や工業の分布には、どのような特徴があるのだろうか。また、その分布と環境問題の関連性はどのようなものだろうか。

・EUの農業や工業の分布について捉える。
・産業と環境問題の関連性について調べたり、話し合ったりしてまとめる。

4. EU内で取られている環境・エネルギー政策について調べ、日本の環境・エネルギー政策と比較する。

【主な問い】
EUでは環境問題やエネルギー問題に対してどのような取組をしているのだろうか。また、日本の取組と比較をしてみよう。

・EUの環境・エネルギー政策について、調べたり話し合ったりして、まとめる。
・EUと日本の環境・エネルギー政策を比較し、話し合いを通して差異や共通性をまとめる。

・EUおよび日本の環境・エネルギー政策の差異や共通性に着目し、日本の政策に生かせそうな取組を判断し表現する力。

5. EUの環境・エネルギー政策のうち、日本の政策の参考にできそうなことを考察・判断する。

【主な問い】
EUの環境・エネルギー政策のうち、日本が参考にできそうな環境・エネルギー政策は何だろうか。

・日本の政策に参考にできそうなことを自分なりに考察をする。
・考察した内容をもとに、他者と意見交換を行い、最終的に判断し、表現する。

【予想される生徒の具体の表現】

・EUは、2050年までに二酸化炭素の排出をゼロにするという目標を立てている。EUは、その目標達成のために、太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーの比率を高める政策を進めている。現在の日本は、火力発電の比率が高いので、今後EUの政策を参考にしながら、再生可能エネルギーの比率を高めていくべきだと思う。

<新たな「学習課題」の例>

日本は今後、他地域とどのようにつながっていくことが望ましいのか。
※内容C(2)「日本の地域的特色と地域区分」との関連

見方・考え方を働かせている子供の姿の例

・問いに対して、自然環境や国々の位置関係に着目して、それぞれの国々の関係性がどのようになっているかを考えている姿。

・問いに対して、農業や工業の分布に着目して、そこで見られる環境問題と地理的位置を関連付けて調べたり話し合ったりしている姿。
・問いに対して、一般的共通性や地方的特殊性に着目して、EUと日本の環境・エネルギー政策を比較し、話し合っている姿。

・問いに対して、これまでの学習活動を基に、EUと日本の環境・エネルギー政策の差異や共通性に着目し、日本が参考にできそうな政策や取組を考え判断している姿。

見方・考え方を鍛える教師の手立ての例

・自然環境やヨーロッパ州の国々の共通点に着目できるように、関連付けることができる主題図や分布図を提示する。

・ヨーロッパ州の地形や気候、資源の分布に着目し、環境問題と産業を関連付けられるように複数の地図や主題図を提示する。
・EUや日本の環境・エネルギー政策を捉えるための資料を収集し、比較できるように参考文献等を提示する。

・EUと日本の環境・エネルギー政策の差異や共通性に着目し、日本が「まだできていない政策」や「今後重点的に行うとよい政策」のように整理する視点を明示する。

主な資質・能力の系統

(小) 第5学年
イ(ア)「世界の大陸と主な海洋、世界の主な国々」
世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成などに着目して、我が国の国土の様子を捉え、その特色を考え、地図帳や地球儀などを用いて説明すること。

(小) 第6学年
イ(ア)「外国の人々の生活の様子」
外国の人々の生活の様子などに着目して、日本の文化や習慣との違いを捉え、国際交流の果たす役割を考え、レポートなどにまとめたり、根拠や理由を明確にして議論したりすること。

第1学年
《地理的分野》
A(1)①「世界の地域構成」
世界の地域構成の特色を、大陸と海洋の分布や主な国の位置、緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察し、表現すること。

第1学年
《地理的分野》
B(1)「世界各地の人々の生活と環境」
世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現すること。

本単元

第3学年
《公民的分野》
A(1)現代日本の特色(情報化・グローバル化)
少子高齢化、情報化、グローバル化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現すること。

高等学校 地理総合
B(1)「生活文化の多様性と国際理解」
世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現すること。

三つの柱の資質・能力

学びに向かう力、人間性等

中世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究・解決しようとする態度。

多面的・多角的な考察や深い理解を通して我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や歴史上の人物と文化遺産を尊重することの大切さについての自覚をもつこと。

知識及び技能

(ア) 武家政治の成立とユーラシアの交流（鎌倉幕府の成立、元寇モンゴル帝国の襲来）などを基に、武士が台頭して主従の結びつきや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったこと、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解すること。

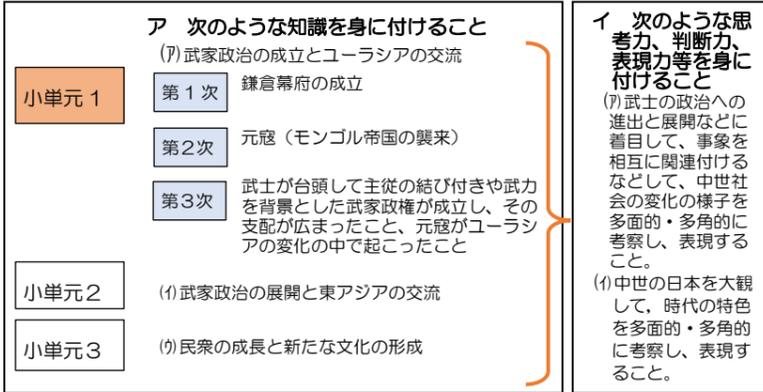
思考力、判断力、表現力等

(ア) 武士の政治への進出と展開などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現すること。
(イ) 中世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現すること。

《社会科における内容の枠組みと対象》※別紙1参照



《単元構成》B(2)中世の日本



《個々の生徒の状況に応じた配慮》

◇地図等の資料から情報を見付け出しやすさが困難な場合には、情報を精選し、視点を明確にする。
◇動機付けの場面において、学習課題を見いだすことが難しい場合には、写真などの資料や発問を工夫する。また、方向付けの場面において、予想を立てることが困難な場合には、見通しがもてるようヒントになる事実をカード等に整理して示し、学習順序を考えられるようにする。そして、情報収集や考察、まとめの場面において、どの観点で考えるのか難しい場合には、ヒントが記入されているワークシートを作成する。

《他教科等との関連》

【国語】伝統的な言語文化（「平家物語」）
【美術】鑑賞（身近な地域や諸外国の文化遺産のよさや美しさ）

資質・能力を身に付けるための課題解決的な学習活動例

【課題把握】動機付け / 方向付け

【課題追究】情報収集 / 考察・構想

【課題解決】【新たな課題】まとめ / 振り返り

鎌倉時代を特徴付けるものは何だろう。平安時代と比較しながら探ってみよう。

・天皇や貴族の政治と武士の政治への進出・展開に着目して、比較したり、類似や差異を見いだしたりする力。

1. 鎌倉時代の動きを年表にまとめることを通して、前の時代との違いに興味をもつ。

【主な問い】

武士はどのようにして力をつけていったのだろう。

・鎌倉時代の主な出来事や人物を年表にまとめる。

2. 武士が政治の実権を握った背景を捉え、「単元を貫く課題」を設定し、学習の見通しをもつ。

・「戦い」「政治」「権力の維持」を視点として、武士に実権が移った背景を調べる。

・分かったことをこれまでの時代の政治等との類似や差異について話し合う。

・鎌倉時代の特色について、幕府政治の仕組み、人々の生活、他国とのかかわりについて考えていくことを伝え、学習の見通しをもつ。

・武家政治の成立とその推移に着目し、政治の仕組み、人々の生活、他国とのかかわり等を調べることを通して、権力の高まりを考察する力。

3. 鎌倉幕府の成立から承久の乱について調べ、それぞれの背景、経過、結果などをまとめる。

【主な問い】

鎌倉を中心とした武家政権は、どのようにして権力を高めていったのだろう。

・鎌倉幕府の成立とその仕組み、御恩と奉公の関係などを調べ、話し合う。

・承久の乱について背景、経過、結果などを調べ、幕府の支配の広まりについて話し合う。

4. 武士の生活や地頭の支配、農業と商業の発達について調べ、まとめる。

【主な問い】

鎌倉時代の人々の生活はどのように変わったのだろう。

・資料（武士と貴族の館、武芸の訓練など）から武士の暮らしや地頭の支配、農業と商業の発達について調べ、社会の変化の様子をまとめる。

5. 鎌倉時代に生まれた文化や宗教について調べ、それぞれの特色をまとめる。

【主な問い】

鎌倉時代の文化と仏教は、これまでの時代とどこがどのように違うのだろう。

・様々な資料について、平安時代との比較から気が付いたことを基にして、その理由を考え、特色をまとめる。

6. モンゴルの襲来による鎌倉幕府への影響について調べ、幕府が衰えていった原因をまとめる。

【主な問い】

モンゴルの襲来は鎌倉幕府の権力にどのような影響を与えたのだろう。

・モンゴル帝国の拡大によるユーラシア全体の変化について調べ、まとめる。

・元寇が幕府と御家人の関係に与えた影響について考え、話し合う。

・鎌倉時代の特色について、それぞれの事象の背景、結果、影響に着目して、政治の仕組み、人々の生活、他国とのかかわりに関連付けて表現する力。

7. 武家政治が成立し、その支配が広まった理由について、意見交換しながら自分なりの言葉で表現する。

【主な問い】

鎌倉時代を特徴付けるものは何だろう。

・政治の仕組み、人々の生活、他国とのかかわり等から、その背景、結果、影響に着目して関連付けたことを図などにまとめ、それを基に話し合う。

・話し合ったことを参考にし、自分の考えをまとめる。

予想される生徒の具体的な表現

鎌倉時代を特徴付けるものは、それまでの上皇や貴族の政治と違って、幕府のもとで御恩と奉公の関係に基づいた将軍と御家人の主従関係が強くなっていったことではないかと思う。また、武力と団結を重んじる武士の風が、暮らしや文化に反映しているといえる。

＜新たな「学習課題」の例＞

次の時代でも主従関係は大切にされるのだろうか。

※内容 (イ) 「武家政治の展開と東アジアの動き」との関連

見方・考え方を働かせている子供の姿の例

・問いに対して、武家政治の成立の背景に着目し、天皇や貴族の政治との類似や差異について話し合っている姿。

・問いに対して、幕府の成立から承久の乱について、それぞれの背景、経過、結果などに着目して、政治の仕組みと支配の広まりについて話し合っている姿。
・問いに対して、前の時代との比較や社会の変化の様子に着目し、武士の暮らしや地頭の支配、農業と商業の発達についてまとめている姿。
・問いに対して、前の時代との比較により、特色をまとめている姿。
・問いに対して、元寇の背景や結果などを関連付けて考え、話し合っている姿。

・問いに対して、鎌倉幕府の主従関係に関連図にまとめ、政治の仕組み、人々の生活、他国とのかかわり等から、その背景、結果、影響に着目し、説明したり話し合ったりしている姿。

見方・考え方を鍛える教師の手立ての例

・武家政治の成立の背景に着目できるよう調べる視点を示すようにする。

・それぞれの事象について着目する視点を明示し、政治の仕組みを考察することにつなげるようにする。
・前の時代との比較や社会の変化の様子に着目できるよう資料を提示する。
・元寇の背景や結果、影響などに着目できるよう資料を提示する。

・鎌倉時代の特色について、これまでの学習からつかんだことを関連付けできるように視点を示すようにする。

主な資質・能力の系統

(小) 第4学年
(4) 県内の伝統や文化、先人の働き
◆歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目して、県内の文化財や年中行事の様子を捉えたことや、人々の願いや努力について考えたことを文章で記述したり、年表などにまとめたりしたことを基に説明すること。
◆当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、地域の発展に尽くした先人の具体的事例を捉え、先人の働きを考え、文章で記述したり年表などにまとめたりしたことを基に説明すること。

(小) 第6学年
(2) 我が国の歴史上の主な事象
世の中の様子、人物の動きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、文章で記述したり、年表や図表などにまとめたことを基に説明したりすること。

本単元

第2学年
C 近現代の日本と世界
各時代の特色を大きく捉え、政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色など他の時代との共通点や相違点に着目して、学習した内容を比較したり関連付けたりするなどして、その結果を言葉や図などで表したり、互いに意見交換したりすること。

第3学年
A(1) 現代社会における文化の意義
現代社会における文化の意義や影響の理解を基に、それらの知識などを活用して考察し、表現すること。その際、地理的な見方・考え方や歴史の見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現すること。

高等学校 日本史探究
我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想することや、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすること。

三つの柱の資質・能力

学びに向かう力、人間性等

東北地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度。
多面的・多角的な考察や深い理解を通して我が国の国土に対する愛情を深めること。

知識及び技能

(ア) 東北地方について、その地域的特色や地域の課題を理解すること。
(イ) 災害からの教訓を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解すること。

思考力、判断力、表現力等

(ア) 東北地方において、災害からの教訓の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること。

《社会科における内容の枠組みと対象》※別紙1参照

対象	日本	対象	日本
内容	C(2)日本の諸地域	内容	地域の伝統や歴史的な背景を踏まえた視点

《 単元構成 》

ア 次のような知識を身に付けること
(ア) 幾つかに区分した日本のそれぞれの地域について、その地域的特色や地域の課題を理解すること。
(イ) ①から⑤までの考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解すること。

小単元1	①自然環境を中核とした考察の仕方	九州地方
小単元2	②人口や都市・村落を中核とした考察の仕方	北海道地方
小単元3	③産業を中核とした考察の仕方	中国・四国地方
小単元4	④交通や通信を中核とした考察の仕方	中部地方
小単元5	⑤その他の事象を中核とした考察の仕方	関東地方
		近畿地方
		東北地方

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること

(ア) 日本の諸地域において、それぞれ①から⑤までで扱う中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること。

《個々の生徒の状況に応じた配慮》

◇地図等の資料から必要な情報を見付けだしたり、読み取ったりすることが困難な場合には、情報を精選し、視点を明確にする。
◇社会的な事象等に興味・関心がもてない場合には、実際的な体験を取り入れ、学習の順序を分かりやすく説明する。

《他教科等との関連》

【総合的な学習の時間】防災のための安全な町づくりとその取組【特別活動】(学級活動(2))エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成

資質・能力を身に付けるための課題解決的な学習活動例

【課題把握】動機付け / 方向付け

【課題追究】情報収集 / 考察・構想

【課題解決】【新たな課題】まとめ / 振り返り

【単元を貫く課題】東北の震災の教訓から、高知の防災を考えよう。

・東北地方と高知県の地形の分布や位置に着目し、地震被害と関連付けて調べたり話し合ったりして、問いを見出す力。

1. 東日本大震災で、どこにどのような被害があったか調べるとともに、今後、高知県に起こるとされている地震の被害について予想し、「単元を貫く課題」を設定し、学習の見通しをもつ。

【主な問い】

東北の震災教訓から、高知の防災を考えよう。

- ・東北地方の地図や震災の被害を示した資料を基に、東日本大震災の被害の種類ごとの分布を確認する。
- ・東北地方の地域ごとに被害の状況が異なることを理解したうえで、高知県の防災・減災の取組について予想する。
- ・東日本大震災の被害や教訓を、高知県の自然環境や取組を踏まえたうえで、どう生かしていくか考えていくことを伝え、学習の見通しをもつ。

2. 東北地方と高知県の自然環境について調べ、類似や差異を見だし、防災における特色と関連付けて捉え、表や地図などを使って整理する。

【主な問い】

東北地方と高知県の共通点と相違点を明らかにしよう。

- ・東北地方と高知県の地形と気候、自然災害について調べる。
- ・特に津波の被害について写真等で観察したり、予想される被害を調べたりする。
- ・資料から、自然災害と自然環境との関連に気付く。

・人間と自然の相互依存関係に着目し、産業や伝統行事と震災の影響を関連付ける力。

3. 東日本大震災が産業に与えた被害やその後の人々の生活の変化を調べ、整理する。

【主な問い】

東日本大震災が産業にもたらした被害から、南海トラフ地震が起こったときに高知の産業に与える影響を予測しよう。

- ・リアス海岸を生かした水産業が行われていることや、その被害状況について調べ、整理する。
- ・東北地方の水産業と関連する産業への影響を調べ、地図等を用い整理する。
- ・資料から地域の産業が受けた被害と人口推移を結び付け、考えたことをまとめる。
- ・高知県に見られる産業を調べ、地震災害が起こったときに受ける被害や影響を、資料を基に予測する。
- ・震災以外の自然災害や日本海側の果樹・稲作などについても調べ、まとめる。

4. 東日本大震災が東北地方の伝統行事や習慣にもたらした影響について調べる。

【主な問い】

東北地方の祭りや伝統行事には、どんな願いが込められているのだろう。

- ・東北地方の伝統行事や習慣を調べ、自然環境との関わりや歴史的背景などの地域的特色を踏まえて祭りの起源を理解する。
- ・集客による経済効果が復興につながっていることを、資料を基に理解する。

・人間と自然の相互依存関係に着目し、自分たちの生活と関連付けて捉え、自分にできることや自分の考える望ましい社会の在り方を表現する力。

5. 東日本大震災で、過去の地震被害の教訓がどのように生かされていたか調べ、整理する。

【主な問い】

東北の震災の教訓から、高知の防災を考えよう。

- ・東北地方の過去の地震災害について調べる。その際、被害を抑えることができた市町村の事例等を基に、石碑や文学作品等の形で残された教訓や避難訓練の実施方法の工夫等について調べ、ソフト面・ハード面に分け整理する。
- ・高知県の過去の震災の教訓について調べる。
- ・高知県の危機管理部等の取組について調べ、そこにおける現在の課題を捉える。
- ・東日本大震災の教訓やその生かし方などについて、調べたり整理したりしたことを基に意見を交流し、自分の考えを深める。
- ・単元の第1次での問いに対する予想的・仮説的な意見と単元終末での問いに対する意見を比較して学習を振り返り、自己の学びの変容を自覚する。

【予想される生徒の具体的な表現】

- ・公助には、堤防等の建設、住宅地の高台移転などのハード面での取組や、県民の避難意識の向上を図るソフト面での取組があることが分かった。
- ・共助や自助については、県や自分の住む市町村の取組を紹介するなど、公助の取組を周知していくことや、避難所の運営等、自分にできることを考え、実行していくことが必要である。

<新たな「学習課題」の例>

震災と共存する地域社会をどのように創っていけばよいのだろう。

※内容 地理的分野C(4)「地域の在り方」との関連

見方・考え方を働かせている子供の姿の例

・問いに対して、東北地方と高知県の地形の分布や位置に着目して、地震被害と関連付けて捉え、調べたり話し合ったりしている姿。

・問いに対して、人間と自然の相互依存関係に着目し、地域の産業や伝統行事について震災の影響と関連付けて捉え、調べたり話し合ったりしている姿。

・問いに対して、これまでの学習内容を基に、地震被害の分布や地域ごとの差異に着目し、震災の際に生かされた教訓と関連付けて捉え、今後の生活や地域社会の在り方について考えたり、話し合ったりしている姿。

見方・考え方を鍛える教師の手立ての例

・位置や分布に着目し、地震の被害について調べる視点や地図等の資料を提示する。

・地域の産業や伝統行事を震災の影響と関連付けて捉えられるよう問いを設定し、産業や伝統行事における変化を調べることができる資料を提示する。

・地域ごとの教訓の生かし方を調べることを通して、学習内容を自己の生活や地域社会の在り方と関連付けて捉えることができるようにする。

主な資質・能力の系統

(小) 第4学年
(4) 都道府県の名称と位置
我が国における自分たちの県の位置、県全体の地形や主要産業の分布、交通網や主要都市の位置などに着目して、県の様子を捉え、地理的環境の特色を考え、表現すること。

(小) 第5学年
(1) 我が国の国土の様子と国民生活
地形や気候などに着目して、国土の自然などの様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現すること。

(小) 第5学年
(5) 我が国の国土の自然環境と国民生活
災害の種類や発生位置や時期、防災対策などに着目して、国土の自然災害の状況を捉え、自然条件との関連を考え、表現すること。

第1学年
A(1)②日本の地域構成
日本の地域構成の特色を、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目して多面的・多角的に考察し、表現すること。

第2学年
C(2)日本の地域的特色と地域区分
日本の地域的特色を、自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信までの項目に基づく地域区分などに着目して、それらに関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること。

本単元

第2学年
C(4)地域の在り方
地域の在り方を、地域の結び付きや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。

高等学校地理総合
(1) 自然環境と防災
地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現すること。

三つの柱の資質・能力

学びに向かう力、人間性等

経済活動の意義について消費生活を中心に学びながら、市場の働きと経済について関心を高め、課題を意欲的に追究しようとする態度。

多面的・多角的な考察や深い理解を通して、国民主権を担う公民として自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合う大切さについての自覚を持つこと。

知識及び技能

(ア) 身近な消費生活を中心に経済活動の意義について理解すること。

(イ) 市場経済の基本的な考え方、市場における価格の決め方や資源の配分について理解すること。

思考力、判断力、表現力等

(ア) 個人の経済活動における役割と責任について多面的・多角的に考察し、表現すること。

《社会科における内容の枠組みと対象》※別紙1参照

Table with 2 columns: 私たちと経済, 対象, 内容. Content includes (1)市場の働きと経済, (2)国民の生活と政府の役割.

《 単元構成 》B 私たちと経済

ア 次のような知識を身に付けること

小単元1 (ア) 身近な消費生活を中心に経済活動の意義 (イ) 市場経済の基本的な考え方、市場における価格の決め方や資源の配分

- 第1次 導入：経済活動とは
第2次 価格の働きと経済
第3次 消費生活と流通
第4次 消費を支える政府の取組
第5次 小単元のまとめ

小単元2 (ウ) 現代の生産や金融などの仕組みや働きを(略) (エ) 勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の内容(略)

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること

(ア) 個人や企業の経済活動における役割と責任について多面的・多角的に考察し表現すること (イ) 社会生活における職業の意義と役割及び雇用の改善について多面的・多角的に考察し、表現すること。

《個々の生徒の状況に応じた配慮》

- ◇学習上の課題を見いだすことが難しい場合には、社会的事象等を読み取りやすくするために、写真などの資料や発問を工夫する。
◇予想を立てることが困難な場合には、見通しがもてるようヒントになる事実をカード等に整理して示し、学習順序を考えられるようにする。
◇どの観点で考えるのが難しい場合には、ヒントが記入されているワークシートを作成することなどの配慮をする。

《他教科等との関連》

【家庭】消費生活・環境

【課題把握】動機付け / 方向付け

【課題追究】情報収集 / 考察・構想

【課題解決】【新たな課題】まとめ / 振り返り

賢い消費者になるためには、何を大切にすべきだろう。

・身近な消費生活に着目し、経済活動における消費者の役割についての考察から問いを見いだす力。

- 1. 消費者(家計)としての立場から経済活動への関わりについて考える。
・最近買った商品等の一覧を作成する。
・「『特定額給付金』を給付した政府のねらいは」という問いを投げかけから、消費者(家計)、企業、政府の関係について確認する。
【主な問い】
商品を購入する上で大切にしていることは何だろう。
・問いに対する自分の考えを出し合い共有する。
2. 人が生涯で消費する金額を捉え、「単元を貫く課題」を設定し、課題に対する予想を考えることで、学習の見通しをもつ。

・商品の価格に着目し、「需要と供給」、「流通の合理化」が価格に与える影響について考察する力。
・消費者問題に着目し、政府のはたらきと関連付けて、消費者の権利と責任について考察する力。

- 2. 需要と供給の関係から価格の決め方について考える。
【主な問い】
マスクの値段はなぜ大きく変動したのだろう。
・コロナ禍前後のマスクの価格の変動を資料から読み取る。
・価格の変動と需要と供給の関係について社会背景とも関連付けて考える。
3. 流通経路と商品の価格との関係性について考える。
【主な問い】
同じ商品の価格が、店舗によって変わるのはなぜだろう。
・様々な流通経路の資料を基に問いに向けて追究する。
・流通経路の合理化が消費者や企業にもたらすメリットやデメリットについて考え、まとめる。
4. 消費者の権利と責任について考える。
【主な問い】
安心・安全な消費生活を送るためにどんなことに気をつけることが必要だろう。
・身近な消費者問題について知っていることを共有する。
・オンラインショッピングに着目し、そこでの利便性や課題を小売店販売と比較しながら考え、まとめる。
・消費者の権利と行政の役割について知る。

・消費者の役割や責任についての考察から、よりよい生活への維持・向上に向け、その課題を解決しようとする力。

- 5. 個人の経済活動における役割と責任について、これまでの学習を基に、第1次での考えと比較しながら自分の言葉で表現する。
【主な問い】
賢い消費者になるためには、何を大切にすべきだろう。
・消費者としての経済活動における役割と責任について、これまで学習したことを関連付けて話し合う。
・話し合ったことを参考に、自分の考えをまとめ、第1次での予想と比較し、考えの変容に気付く。

【予想される生徒の具体的表現】

・商品を購入する際は、安さだけを求めるのではなく、安心安全、手間など総合的に判断するとともに、企業側への影響についても考える。

＜新たな「学習課題の設定」の例＞
経済活動との関わりの中で企業は何を大切にすべきだろう。
※内容(ウ)「現代の生産や金融などの仕組みや働き」

見方・考え方を働かせている子供の姿の例

・問いに対して、身近な消費生活から「分業と交換」に着目し、消費者が経済においてどのような役割を担っているかを考えたり、話し合ったりしている姿。

・問いに対して、需要と供給の関係を「希少性」に着目して、商品の価格に与える影響について考えたり、話し合ったりしている姿。
・問いに対して流通の合理化を「効率と公正」に着目し、商品の価格に与える影響について考えたり、話し合ったりしている姿。
・問いに対して、オンラインショッピングでの「安全性」や「利便性」に着目して、消費者の権利や行政の役割について考えたり、話し合ったりしている姿。

・問いに対して、これまでの学習をもとに、個人の経済活動における役割と責任について説明したり、話し合ったりしている姿。

見方・考え方を鍛える教師の手立ての例

・分業と交換に着目できるよう、身近な消費生活から経済活動を考える視点を導き出すようにする。

・価格の変動の要因をコロナ禍の社会背景と需要と供給のバランスを関連付けて考えることができるよう資料を提示する。
・流通の合理化と価格の変動を関連付けて考えることができるよう資料を提示する。
・オンラインショッピングと小売店販売を比較させて考えることができるよう資料を提示する。

・経済活動における消費者の役割について、これまでの学習の内容と関連付けて考えることができるよう視点を示すようにする。

主な資質・能力の系統

(小) 第3学年 (2) 地域に見られる生産や販売の仕事

消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、販売に携わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考え、文章で記述したり、説明したりすること。

(小) 第4学年 (2) 人々の健康や生活環境を支える事業

供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、飲料水、電気、ガスの供給のための事業の様子を捉え、それらの事業が果たす役割を考え、文章で記述したり、説明したりすること。

(小) 第5学年 (2) 我が国の農業や水産業における食料生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、文章で記述したり、説明したりすること。

(3) 我が国の工業生産 製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、工業製品に関わる人々の工夫や努力を捉えその働きを考え、文章で記述したり説明したりすること。

第1学年 C(3) ③産業を中核とした考察の仕方

産業を中核とした事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、文章で記述したり、説明したりすること。

本単元

高等学校 公民科(政治・経済)

国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養うこと。